

学校経営方針について

こんな願いをもとにして学校経営方針を立てました。 令和6年4月

墨田区立立花吾嬬の森小学校 校長 向井一郎

「明日が待ち遠しくなる学校」を目指し、子供たちが笑顔いっぱい登校する姿が毎日見られるために令和5年度の教育活動を進めさせていただきました。その成果で、学年度末の児童からのアンケート、保護者アンケートにおいても肯定的な回答を得ることができました。(楽しく学校に通っていることへの回答：児童 94.6% 保護者 81.5%)

しかし、この数値が100%になっていないことを真剣に受け止めなくてはならないと捉えました。校内で一割の児童が教室の中で笑顔でいられないと感じながら日々の学校生活を送っていたと考えなくてはならないのです。

その理由は、勉強が分からない、友達との関係がうまくいかない、先生にうまく自分の気持ちを伝えられない、理解してもらえないなど様々なことが考えられます。年に三回の「いじめアンケート」を実施していますが、そこにうまく表現できずに、心の中に抱えてしまった子もいたのかもしれない。

我々教員は、子供たちの笑顔を見ると安心してしまいますが、その向こうに「不安な表情」をしている児童がいないかということについては、教室でも、学校全体の中でも目を向けていくようにしたいと思います。良いことでも、心配なことでも、子供たちの小さな変化にも目を向けられる「チーム立吾」でいたいと思います。

昨年度、本校は学力向上の面でも昨年度様々な研究の機会をいただきました。「特色ある学校づくり」(墨田区教育委員会)「数学的リテラシー・読解リテラシーの向上」(千葉大・教育研究所との連携)教育活動、「学習への動機づけの向上の研究」(東京未来大学との連携)そして校内研「自ら学び、自ら考える児童の育成」です。その他にも各学年で「基礎・基本」の定着のための授業改善や、タブレット端末などを積極的に活用した能動的な授業を進めることができました。これらについても、保護者の皆様からの年度末アンケートで92.6%の肯定的な回答を得ることができました。(教員の授業の工夫項目)未来を築く子供たちにとって、今求められている学力は様々なものがあります。知識を覚えるだけでなく、それを活用し考え、発信していく力も必要です。その手段も5年後、10年後、さらに進化していくと思います。AIと共存しながら「すごいこと」ができるようになる時代の中心になるのが、今の小学生たちなのだと思います。

これまでの教育活動の中で全校児童が「ゆめ」をしっかりともっていることが分かりました。今もっている「ゆめ」が将来の「目標」となるように力を高める場所が学校だと思えます。学習だけではなく、人間関係を深める力、生活力、もちろん災害等から身を守る力など、あらゆる力を身につけさせてあげたいです。

以上のようなことや以下に示す墨田区の教育目標も合わせて学校経営方針を立てました。

これらのことは、ご家庭との連携なしには進められません。どうぞ令和6年度の立花吾嬬の森小学校の教育にご協力ください。子供たちのことをみんなで育てていきたいです。

参考

墨田区教育委員会が掲げる教育目標(平成20年決定)

育てたい3つの力

- ・挑戦する力
- ・つながる力
- ・役立つ力

これを具体化した墨田区教育施策大綱における目指す子供の将来像

- 1 将来、社会で活躍し、地域に貢献できる自立した人
 - ・感性豊かでいろいろなことに興味・関心をもって学び、実践できる人
 - ・自己肯定感を育みながら、まわりの人の立場や気持ちを思いやることができる人
 - ・スポーツや遊びを通じて、健やかな体を育むことができる人
- 2 郷土に誇りをもち、異文化とも敬意をもって積極的に交流できる国際感覚のある人

それを受けて立てられた墨田区教育指針の5つの目標

(墨田区教育振興基本計画 令和5年度～令和8年度版より)

目標1 夢と希望の実現に向けて確かな学力の定着と向上

- 1 基礎・基本の定着
- 2 発展的学習の展開
- 3 非認知的能力の向上【新規】
- 4 STEAM教育の推進【新規】
- 5 教員の指導改善と資質・能力の向上
- 6 国際理解教育と英語力向上を図る取組の推進
- 7 更なる学力向上マネジメントの推進【新規】
- 8 学習意欲の向上

目標2 豊かな人間性の育成 24

- 1 自己有用感及び自己肯定感の醸成【新規】
- 2 人権教育及び道徳教育の推進
- 3 いじめ防止対策の強化
- 4 情報モラル教育の充実【新規】
- 5 SDGsの取組の推進【新規】
- 6 図書館と連携した教育活動の充実

目標 3 体力の向上と健康の増進

- 1 体力向上への取組
- 2 食育の推進
- 3 部活動における外部人材の活用及び地域移行【新規】・・・中学校
- 4 ヘルスリテラシーの涵養【新規】

目標 4 教育環境の整備と機能強化

- 1 教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進【新規】
- 2 不登校対策の充実
- 3 特別支援教育の充実
- 4 帰国・外国人児童・生徒への対応
- 5 教育に関する相談・支援
- 6 墨田区教育センターの整備
- 7 民間等と連携した教育活動の充実
- 8 安全・安心な学校施設の整備

目標 5 学校(園)・家庭・地域の相互連携と協働

- 1 地域資源を活用した教育の推進
- 2 援助や配慮を必要とする家庭への支援に関する連携【新規】
- 3 家庭の教育力向上への取組の推進
- 4 幼保小中一貫教育の推進
- 5 「地域とともにある学校」の運営
- 6 郷土文化を守り育てる教育の充実

教育目標

身体も心も健康で、思いやりの心を持ち、よく考え学ぶ子供

基本方針・・・「ゆめ」に向かって自ら学んでいく子供を育てる。「自学自修」

明日が待ち遠しくなる学校・・・ひとこと言え

- ① 学ぶことが楽しい学校・・・学びの保証
 - ・勉強がよく分かり、さらに多くのことを知りたくなるような授業がある学校
 - ・困った時に、安心して聞いたり、相談したりすることのできる先生のいる学校
- ② 自分のことを安心して表現できる学校・・・人間関係づくり
 - ・ひとりひとりの良さが教師からも、友達からも認められ、安心して自分のことを表すことのできる学校
 - ・自分のことも大事にし、友達のことでも大事にすることができる子供たちのいる学校
 - ・しっかりとあいさつができ、友達、先生、地域の人々とも気持ちよくかかわることができる学校
- ③ 子供たちのために、みんなが力を合わせる学校・・・連携・協働
 - ・教員が「チーム」として、同じ方法を目指し、互いを磨きながら成長していく学校
 - ・保護者や地域の方々が、子供たちのために力を貸したくなるような学校

目指す学校像

- ・子どもたちの笑顔のために、教職員が互いに指導力を磨き合い、チームとして進んでいく学校

目指す児童像

- ・ゆめの実現のために目を輝かせて、学習に主体的に取り組むことのできる児童
- ・自分のこと、友達のこと、自校のこと、地域のことを好きだと胸を張って言うことのできる児童

目指す教師像

- ・児童のゆめの実現のために学び合い、努力を続ける教師

「ゆめ」を育む教育の実践のために

1 確かな学力の向上

日々の授業の工夫

- ① 読む力、書く力、話す力、聞く力を伸ばす授業づくり
 - ・様々な学習の中で読解力、表現力を高める。・・・校内研との連携
 - ・表現する場を学年に応じて工夫してつくる。タブレット端末の効果的な活用
 - ・読書好きの児童をさらに増やす。
- ② 課題解決の力を伸ばす授業づくり
 - ・児童が身近な事象の中から不思議だなという疑問を見つけ、調べてみようという気持ちを抱き、主体的に学んでいこうとするような授業展開を心掛ける。
(墨田区、地域には学習材となるものが多く眠っている。それらも活用し生活科、理科、社会科などの授業展開の工夫していく。)
- ③ 話し合い、考えを深めることのできるような授業
 - ・教師と、友達と、相互にやり取りをしながら、自分の考えを深めるような場面を意図的に設けた授業を進める。
(タブレット端末も活用するが、従来の黒板と児童のノートを活用する授業も大事にする。)

日々の学習の工夫

- ① 目的をもった家庭学習を進める。
 - ※宿題から、自学へつなげていく。・・・各種復習教材の効果的な活用
 - ※児童には確実に返し、次に生かしていく。(自分のミスを知る。)
- ② 朝学習の時間を生かし、読書、基礎学習、前単元の振り返りを行う。
 - ※読書習慣を身につける。
(読書への意欲が向上しています。)
- ③ 補習の時間を設け、次の学習に進む前の不安を取り除く。(振り返り学習の充実)
 - ※インプット～アウトプット

環境を生かす

- ① タブレット端末を生かした授業の工夫
 - 自分で撮影したり、映像などを見たりして、具体物を通した授業の工夫
- ② 区学力調査、東京ベーシック・ドリルや診断テストを活用した学力の把握により、一人一人の力をつかんで指導を進める。
- ③ 地元、地域の教材を積極的に生かし、直接本物や人物に触れるような授業づくりに心がける。・・・昨年度の校内研の成果を生かす。力を貸してくれる方の発掘。
 - ※ふりかえりシートや、問題データベースも積極的に活用する。

2 豊かな心の育成

学校生活の中で

- ① 特別の教科道徳の時間では、よく考え話し合いながら自己を振り返ることができる場面をつくる。
- ② 異学年交流の場面を増やし、上級生は下級生を意識し、下級生は上級生にあこがれの気持ちを抱くことができるようにする。(6年生が手本となっていく。)
- ③ 学校内、学級内での人間関係づくりを進めるために、仲良し遊びの時間を設けたり、自主的な係活動などを工夫したりする。
不審な者への警戒心をもつことは大切であるが、日常の中での子供同士の普通のやり取り(挨拶やさりげない言葉かけなど)が今よりも増えることを目指したい。
※良いやりとりがあった場合は、思い切りほめる。
- ④ ふるさと(墨田区 立花)を意識した教育活動を進める。結果として自校、地域を大切にしたいという気持ちが生まれ、地域の一員であることを学年に応じて意識することを目指す。

教師としての努力

- ① 校内で生じている児童の諸問題を、定期的な会議の中で共有し対応をしていく。
- ② 特別支援教育を一層充実させ、すべての児童が、自分の夢の実現のために生活することを、皆で支える。
- ③ 一人一人の輝きを表現できるような場を用意する。
※良いことを見つけたら思い切りほめる。
※良くないことがあれば、真剣に叱る。

3 体力の向上と健康増進

連携

- ① 基本的な生活習慣が定着するように家庭との連携を強化する。
COCOO やシャボテンログなどの有効活用
- ② 健康教育、食育の充実を図るために区教育委員会や保健所との連携をとる。

実践

- ① 体育の授業内容を充実させ、時間内での運動量が増加するように心がける。
- ② 休み時間の遊びが充実するように、体を使った遊びの呼びかけをする。
- ③ 日々の生活の中で環境の衛生に気を付ける。

4 特色ある教育活動

- ・「立吾しぐさ」を大事にする。
- ・幼稚園、保育園、中学校とも連携し、それぞれの機関との円滑な接続を進める。
- ・地域の環境を生かした教育を進める。(ものづくり、神社、川、団地、商店街など)
- ・地域の人材を生かした教育を進める。(ゲストティチャーの積極的な活用)

5 特別支援教育・教育相談体制の充実・・・いじめの早期発見と適切な対応

- ・なのはな学級の運営の充実を図るための工夫をする。
- ・巡回指導の充実を図るほか、校内での児童の情報を共有できるようにする。
- ・「個別指導計画」「学校生活支援シート」などの作成を個別に行う。
- ・すべての児童が安心して生活できるような教育環境づくりをする。
- ・生活指導連絡会等を生かし、児童についての共通理解をする場を設ける。

(週一回の連絡会での情報交換)

- ・スクールカウンセラーにより、面接や相談の場を増やしていく。
- ・年3回のいじめアンケートやアイチェックなどにより、児童の生活の様子をつかみ、生活の実態や抱える問題を把握する場を増やす。

※いじめの定義(いじめ防止対策推進法第2条)

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む。)であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

6 開かれた学校づくり 地域、保護者との連携

- ・PTA との円滑な情報共有、協働を進める。
- ・学校だより、ホームページ等を通じた学校の様子を保護者に知らせる努力をさらに推進する。
- ・学年、学級から保護者への発信も工夫して行うようにする。
- ・学校運営連絡協議会の充実を図り、地域の声、保護者の声が、学校経営に反映できるように心がける。(学校関係者評価の結果も生かす。)